opusdei.org

「あふれる光」:使 徒勧告「福音の喜 び」について属人区 長の記事

イタリアのアヴェニーレ紙に掲載された属人区長の記事。 福音の喜びは人々に伝えずにいられないものだと呼びかけるフランシスコ教皇に答えます。

2014/04/15

あふれる光

「私たちが完全な意味で人間となる のは、私たちが人間以上のものにな る時、そして神が存在にまつわる完 全な真理を獲得させようとして、自 分自身を超えたところまで私たちを 運んでくださる時です。ここに私た ちは福音を宣教する力の源泉を見い だします。なぜなら、人生の意味を 取り戻してくれる愛を受け入れた人 は、その愛を他者に伝えずにはいら れないからです| (Evangelii gaudium——『福音の喜び』 * EG 8)。この言葉をもって教皇フラン シスコは、私たちが『神化』される 存在であることを考えさせ、神の賜 物として与えられるその『高揚』に ついて思い起こさせます。キリスト においてこそ、人間とは何かを悟 り、人間のもつ偉大な召命を発見で きるのです(『現代世界憲章』22参 照)。イエスと出会うことによっ て、その喜びを他者と分かち合いた いと望むようになります(EG3参 照)。教皇フランシスコは招きま

す。「自分の安楽な生き方から抜けだして、福音の光を必要としているすべての周りのところまで、あうに出かけていく」(EG 20)ように発いているに、本り、の見しての親している力と光と慰めなしに過です。というは、この使徒的勧告のもように、この偉大な教えがあるように思われます。

教皇が招いている、抜け出す「出かけること」とは、教会の中で伝統」とは、教会の中で伝教」に「使徒職」または「福音宣教すると「福いまた指してけられたを指してがけると区別したがは、各自のでは、各自のでは、という一でものです。教皇が同された「使徒を獲得するのではなく、をしていると変にしていると変にしていると変にしていると変にしていると変にしていると変にしていると変にない。

人々を『招く』です」。 を『招く』でするのです」。 というないのです。他間の行うない。 というないのでするとないのです。 を無視れることなるといるといいです。 を受けれることがいるといいです。 を受けれるでは、ますののにははずののででは、 をでするといいないはでいるです。 はいることないないないないないないないない。 はいることがいいないないないないないないない。 はいることがいいないないです。 というないないないないないないないないないないないないないない。 にいることないです。 というないないないないないないないないないないないないないないない。 というないないないないないないないないないないないないです。

者の中には、その神への憧れを心に 抱いていない場合も有り得ます。

典型的なキリスト者の生き方を定義 するとすれば、キーワードは「愛」 です。教皇フランシスコは、福音書 の言葉と福音的な行動様式でそれを 表明しています。『招き』(EG 3, 18, 33, 108) 、『強調し』(EG 3) 、『喜びに溢れた心』 (EG 5) について語り、『喜びの川の中』 (EG 5)、つまりキリスト者の共同 体へ入るように励ましています。さ らに、洗礼や堅信の秘跡を受けるに 当たり不必要な条件を付けないよう に勧めています。最近、教皇フラン シスコはアンジェルス(昼のお告げ の祈り)の講話で語りかけました。 「考えてみてください。今、みなさ んがいるサン・ピエトロ広場の中を イエスが歩いて诵っているので すし。

『入る』。イエスは律法学者やファ リザイ人を厳しく非難しています。 「自分が入らないばかりか、入ろう とする人をも入らせない」(マタイ 23.13)。入るままにさせなさい。入 れてあげなさい。入るように招きな さい。聖ホセマリアが言っているよ うに、人々を惹きつける力は、親し みやすさ、祈り、個人的に捧げる犠 性、キリスト者に現存するキリス ト、つまり「あふれる光」によって もたらされます。「真実の愛は、自 己自身を離脱して自己を捧げること です | (『知識の香』43)。これが キリスト教的な使徒職の意味すると ころであり、使徒獲得という言葉本 来の意味です。ヘブライ主義を引き 継いだ教会は、伝統的にそのように 理解してきました。それを石碑に刻 むように、『愛がなければキリスト 者でないように、使徒獲得がなけれ ばキリスト者でない』と心に刻んで きました。

一対一の使徒職は、隣人と一緒に時 間を過ごすことが前提です。また、 祈り、愛と忍耐、理解、友情、相手 の自由を尊重することなどが力の源 泉です。つまり、自我から『出る』 ことです。人々のことに心を砕き、 もっと価値あること、美しいこと、 麗しいことを人々と分かち合うこ と、それがキリスト者の召し出しで す。「常に相手を大切にして、親切 な態度で | 交わる対話なのです。ま ず、「親密な会話です。心を通わせ ることで、相手が打ち明けてくれる こと、喜び、希望、心配事、心にあ ふれるさまざまな事柄を分かち合う のです | (EG 128)。『ついて来な さい』。無理強いすることなく、各 自の自由を尊重しながら、キリスト が招いています。ところが、残念な ことに、あの金持ちの若者との会話 が現状を雄弁に物語っています。 「今ですか?」教皇フランシスコは 次のように続けます。「世界中に塩

と光をもたらすダイナミックな盲教

が最も必要とされる時、多くの信者が使徒的な役目を引き受け行動するように招かれることを恐れ、自分の時間が削られる可能性がある如何なる約束もしたくないと、逃げ回っているのです」(EG81)。

福音の光は『惹きつける光』(EG 100) です。善を行うように私たち を招く愛の法なのです(EG 100-101)。キリスト者の善い行い を見て、周囲の人々は神に栄光を与 えるようになります(マタイ5.16参 照)。人知を超える神の愛を発見し 替美することは、単なる人間的な魅 力以上の神の光です。この意味で、 使徒職はこの光を人々に証すること に他なりません。それは人々の救い を思う聖なる熱意の表れです。聖ヨ ハネが言うように(ヨハネ1.7)強制 という如何なる影もなく、最大級の 繊細さで、あふれるほど光を与える ことです。神は愛だけを望んでいま す。だから柔和に振る舞います。た

だし、そこには活力と好意が伴っています。第20回「世界召命の日」メッセージ(1983年2月2日)の中で、コハネ・パウロ二世は次の名となる、石芸者や、石芸者や、石芸者をであることでありません。それもあってはなりません。それもあってはなりません。それもあってはなりません。それもあってはなりません。それもあってはなりません。それはしていることだからです。そして、みと光の時に成り得るのです」。

「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、クリくだって、互いにも手を自分より優れたものと考え、他のことだけでならい」のというにも注意を払いならい。ことことが多いのことにはかない。ことによっての人々の書を探すこととからいるであるよりはします。原うながある。原うなの未来を創り出します。原うないというではない。

度は、各キリスト者が伝えるキリストの光によって克服されます。それは信仰と謙遜の不足を示す明らかな印だからです。

「どんな光ですか? | ベネディクト 十六世は、最初の回勅を次の言葉で 締めくくっています。「愛は光で す。そして、最終的には、愛こそが 唯一の光です。この光は、闇の世を 常に照らします。そして、わたした ちが生き、働き続けるために必要な 勇気を与えます。愛は存在すること ができます。そして、わたしたちは 愛を実践することができます。わた したちは神の像として造られている からです。愛を生き、そこから神の 光を世にもたらしてください」 (『神は愛』39)。教皇フランシス コは忠実にこれを引き継いで、最初 の回勅で次のように述べています。 「霊における御父と御子の間の流れ は、わたしたちの歴史を歩みます。 キリストはわたしたちを救うため

に、わたしたちをご自身へと引き寄せます(ヨハネ12.32参照)」(『信仰の光』59)。

使徒獲得は誤解されて、相手を尊重 しない強引な勧誘と思われて敬い 実は正反対です。相手に敬意 対し、実裏表のない真に働きされた 表し、で教皇様がためました。 を主まるものであれたがなりまるものであるものであります。 全に心を愛にいるものであるものであるものであるものであります。 で全にを愛にしているのではない、そんな心にするのです。

オプス・デイ属人区長

+ハビエル・エチェバリーア司教

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ahureruguang-shi-tu-quan-gao-fu-yin-noxi-bi-nitsui/ (2025/12/11)